

第4学年 外国語活動（英語活動）指導案

日 時： 平成21年10月8日（木）公開授業Ⅱ
児 童： 男12名 女11名 計23名
指導者： 担 任 舘 脇 照 康 （T1）
 A L T ピーター・テスト（T2）
場 所： 4年教室

1 単元名 料理をつくろう

2 単元について

本単元は、学級活動の「お楽しみ会をしよう」というテーマと連動させ、お楽しみ会で作りたいメニューを決め、その材料を集める場面を英語活動で取り上げる。“Here you are.” “Thank you.”などの他者とのコミュニケーションを円滑に進めるための英語表現を中心に取り上げ、学級活動の中で、班ごとに考えておいた「カレーライス」「ピザ」の材料を集める活動をさせる。グループで食材を集めるために、積極的にクラスメイトと関わる中で、友だちのよさに気づかせ、目的を達成できた喜びを味わわせたいと考えた。

児童はこれまで英語活動に積極的に取り組み、歌やチャンツ、キーワードゲームを楽しんできた。また、英語に対する好奇心も旺盛で、英語を話したり、聞いたりすることが好きである。しかし、自分の意思や習得した表現を活用し、相手に発信することはできても、相手が表現している内容について理解するほどのゆとりがない。

そこで、本単元では知的好奇心に訴えかける活動にするために、3年生までの英語活動の際に聞きなれた「野菜をあらわす単語」に加え、「新しく自分たちが必要とする食材」を表す単語にも触れる。このような言語活動を構成することで、「あすなるタイム」の時間を活用し、十分な交流・定着の時間を確保することで、全員が新出の単語・表現について理解できるようにする。

本時の活動では既に学級活動の時間で計画した「お楽しみ会」の調理について、英語を使って材料を集めることで、積極的にグループ内で活動を行うように必然性を持たせた。その際に児童が分からない言葉を“~in English?”を使い、ALT とのかかわりを持つことで「未知」を「既知」とする場面を設ける。（場の設定）

評価にあたっては、メインレクソンのはじめに「客」の立場の場合は、聞こえるように、はっきりした声で話す（ラウドボイス）、反対に「店」の立場の場合は、相手の伝えようとしていることに耳を傾ける（リッスン）という児童の具体的な活動の姿を与え、そのことについて教師が評価していく。グループ内での評価活動として「お互いに助け合い、協力して材料を集めることができたか」「お互いを認め合うことができたか」について自己評価と併せて、グループ内で交流しながらシールを貼り合うことで評価しあう。（評価の工夫）

3 単元の目標

グループ内で助け合い、カレー・ピザの材料を集めようとする。

4 単元の評価規準

（1）コミュニケーションへの関心・意欲・態度

- ・自分の役割を果たすために、進んで欲しいものを伝え、材料を集めようとする。
- ・グループ内で知っている単語について教え合おうとする。

5 単元計画

<あすなるタイム15分×6 本時45分×1>

時	目標と主な活動	言語材料	
		表現	語彙
あすなる 1	○英語活動に親しむ。 ・英語の歌や動作を楽しむ。 ♪Hello Song♪ ・カレー・ピザのイラストを作り、どのような材料を使って完成させたいか話し合う。		carry and rice, pizza ,
あすなる 2	○調理に必要な食べ物を紹介し、英単語に親しむ。 ・カレー・ピザに必要な野菜を紹介し、それらが英語ではどう言うのか交流する。		potato, carrot, onion, green pepper, tomato, rice, mushroom, (meat)
あすなる 3	○調理に必要な食べ物の呼び方をあらわす英語に親しむ。 ・果物の名前当てゲームを行う。 ・乳製品などの言い方を知る。		pine apple, apple, cheese, milk,
あすなる 4	○英語を使って欲しいものを集める方法にふれる。 ・ビンゴゲームなどの言語活動を行う。	I want ~. Here you are. Thank you. ~ in English?	
本時	◎料理に使いたい材料をはっきり伝え、集めようとする。 ・カレーライスやピザの材料をグループごとに協力して集める。 ◇料理に使いたい材料をはっきり伝え、集めようとしていたか。		
あすなる 5	○どんな料理になるのか紹介しようとする。 ・集めた材料をもとにして、どのようなカレー・ピザを作るか交流しあう。		

6 本時の活動

(1) 目標

料理に使いたい材料をはっきり伝え、集めようとする。

(2) 仮説に関わる具体的な手立て

「生き生きとコミュニケーションをしようとする子どもの育成」を目指すため、次の手立てを取り入れて学習活動を展開する。

① 仮説1（他者との関わりを楽しく体験する場の設定）に関わって

ア 自分たちのグループで考えた料理の材料を集める活動を通して忘れてしまった単語・表現について助け合う場を設ける。

② 仮説2（効果的な評価の工夫）に関わって

ア メインレッスンでは、6つの視点から今日の活動に必要な項目を具体的に示すことで、自己評価の視点を明らかにする。（自己評価）

(3) 展開

段階	学習活動			留意点
	児童	T1	T2	
Greeting Warm-up 5分	1 あいさつをする 2 歌を歌う ♪ Hello Song ♪ ♪ Seven Steps ♪	<ul style="list-style-type: none"> 児童と一緒にあいさつ。 児童と一緒に歌ったり動作遊びをしたりする。 	<ul style="list-style-type: none"> 児童と一緒にあいさつ 児童と一緒に歌ったり動作遊びをしたりする。 	<ul style="list-style-type: none"> 気持ちをほぐし活動への期待感を持たせる。
Review 5分	3 前時に出てきた言葉を復習する。 ・ミッシングゲームを行う。(食材について)	<ul style="list-style-type: none"> 積極的にゲームに参加している子どもをほめて雰囲気づくりを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 単語の発音確認を行い、ゲームの進行を主となり行う。 	<ul style="list-style-type: none"> T1・T2 がリズムにのり、タイミングよく指示を出すようにする。 反応を積極的に評価する。
Main Lesson 25分	4 本時のめあてとポイントを確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin: 5px 0;">カレーライス・ピザの材料を集めよう。</div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> (リッスン) ・客からの注文をしっかりと聞く。 (ラウドボイス) ← ・店員に「何が欲しいか？」をはっきり伝える。 </div> 5 本時の活動を把握する。 6 練習をする。 ・リピート練習 ・チャンツ (“～ in English?”)	<ul style="list-style-type: none"> めあてとポイントを提示する。 黒板に気をつけることを示す。 自己評価の観点を具体的に例示する。(仮説2ア) 実際にT2とやってみせる。(本時のめあてを確認しながら行う。) T2: May I help you? T1: I want ~. T2: Here you are. T1: Thank you. カードを提示しながら、グループに合わせて練習させる。 	<ul style="list-style-type: none"> T1 と会話の流れをやってみせる。 客と店員で会話の内容を練習する。 チャンツを主となり進める。 	<ul style="list-style-type: none"> 英語で材料を集めなければ、調理ができないことを確認する。 あらかじめ決めておいた材料についてメモをもとに言い表せるようにしておく。 グループごとの分担を決めておく。 店員の格好をした T2 に合わせて、T1 は緊張したような演技を

	を含む) 7 実際に活動をする。 ・3つの店に分かれて、野菜・肉・主食の書いてあるカードを渡す。 ・あらかじめグループで決めておいたメモを見ながら材料を集める。 ・値段や個数を考えながら、各グループ1000円の予算で材料を集める。	・2つに分けておいたグループを店員役と客にして行う。 ・やり方を理解しきれていない児童に支援する。 ・4人のグループで助け合いながら活動を行うことで、集団でのコミュニケーションを図る(仮説1ア) ・迷っている児童にはT2にききに行くように指示を行う。	・カードのものが英語でどう言うのか分からない場合、すぐに“～in English?”に対して答えることができるようにしておく。(単語リストの確認をしておく) ・「お店の人」の役で分からない英単語を子どもに教える。	行う。 ・英語で話して手に入ったものしか使えないことを確認する。 ・客の役割をするグループは、それぞれ野菜・肉・穀物その他で注文するものを決めておく。 ・店員の場合も会話が一人に偏らないように分担を指導しておく。 ・各材料は同じものでも値段の違った表示のあるカードを用意しておく。
End of Lesson 5分	8 本時の振り返りを行い相互評価を行う。 ・自己評価としてリッスン・ラウドボイスについて振り返りカードに3段階評価を行う。 ・相互評価として手伝ってくれた仲間へ感謝の意を込めてシールを貼る。 9 歌を歌う。 ♪Good bye song ♪	・自己評価が低い児童には教師から良い点を認め、次への意欲づけを行う。	・“～in English?”を使い、ききに来た子どもを賞賛する。 ・活動のときに、自分の欲しいものをはっきりと伝えていた子どもを紹介する。	・材料が集まったことに対して、グループ内での協力があったことを再確認し、認め合うように声がけを行う。

(4) 評価

料理に使いたい材料をはっきり伝え、集めようとしていたか。

(コミュニケーションへの関心・意欲・態度)